

2022年4月3日(日)上福岡教会 Cs中高科礼拝

日曜日、まず私たちは週の初めにまことの神様を礼拝します。コロナ禍が続く中で、中高科の皆さん、お一人ひとりも守られますように。中高生ライングループは15名となりました。日々「いのちのパン」をいただきお互いのことを覚えてお祈りし交流しましょう。

今朝の聖書

「父よ できることならこの杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願い通りではなく、御心のままに。」(マタイ 26 章 39 節後半)

今年のイースターは4月17日(第3主の日)。3月2日から「受難節(レント)」と呼ばれる日々です。イエスさまの十字架の苦難を思い起こす時であり、自分の罪を嘆き、悔い改めることを心に留める時です。

さて、私たちが受験を前にして大きな不安を抱えるとき、親しいクラスや部活の友達との人間関係に苦しむとき、計画したことが思うように進まなかったとき、担任の先生と話が合わなくなってしまう時、家族との断絶など試練の中で深い孤独を感じる場合がありますね。

ゲツセマネの園で、悶え苦しみ、血の汗がしたたり落ちるほどの祈りをささげられるイエスさまの孤独はどんなだったことでしょうか。それはとても私たちには耐えられない孤独、苦しみです。

イエスさまがこれから向かう十字架の死にまことの人間として直面する恐怖、罪人の身代わりとして父なる神さまから裁かれ、見捨てられるという悲しみ。十字架に向かう前に祈るそのイエスさまの祈りは「できることなら、この杯を私から過ぎ去らせてください」と祈るほどの苦しみでした。神様の怒りと裁きに震えおののきます。

しかし、イエスさまは祈られます。「私の願い通りではなく御心のままに」と。血の汗が滴るような苦しみの祈りの後、イエスさまは、ご自分の果たすべき道、十字架への道、それが神さまのみこころならばしっかりと受け止め従って行こうとされます。

与えられた杯を飲む決意をされたのです。救いを成し遂げてくださったイエスさまの御姿、どのようにわたしたちは受け止めるでしょうか。十字架という最もむごい死刑を覚悟されたイエスさま。そのお苦しみを私たちはあまりにも簡単に考えてはいないでしょうか？

私たちはあの弟子たちと同じだ、眠りこけてしまっている・・・と思わないでしょうか？ イエスさまのゲツセマネの祈り、苦しみの中で、叫ばれる御姿を知る時、自分自身のあまりの鈍さに愕然とします。私たちは「御心のままに」という祈りを心から捧げることがまだできないかもしれません。そのような私たちを憐れんでくださる救い主イエスさまを心から感謝しましょう。

祈り 「目を覚まして祈ってられない弱い私たちを憐れんでください。十字架と復活の救いの道を開いてくださった救い主イエス・キリストを私たちが感謝していただけますように。イエスさまのお名前によって。アーメン。」